



光秀の墓(桔梗塚)

光秀は、土岐四郎基頼と地元の豪族の娘との間に中洞で生まれ、その後、明智城主明智光綱の養子となった。また、山崎の合戦で討ち死にしたのは影武者であり、中洞に落ち延びて住んでいたという伝承がある。桔梗塚には、「光秀の墓」と「五輪塔」がある。



常在寺

若き光秀が仕えた斎藤道三ゆかりの寺。美濃国守護代の斎藤家出身であったこの寺の高僧と道三は少年時代からの知己で、道三は斎藤家に入り出ており、やがて斎藤姓を名乗るようになる。なおこの寺は、道三以後の斎藤家三代の菩提寺になっている。



西高木家陣屋跡

光秀は、1528年大垣市上石津町多良の進士の居城「多羅城」で生まれ、母が明智光綱の妹であったため、明智家の養子となったとされる。 ※多羅城推定地のうちのひとつ



上石津郷土資料館

国史跡の西高木家陣屋跡に建つ資料館。上石津で出土した石器、民俗資料、動植物の標本を展示するほか、「島津の退き口」の紹介もしている。



大桑城跡

光秀の主流土岐氏は、室町時代の始め頃、美濃・尾張・伊勢の三国守護として権勢を誇り、戦国時代には大桑を本拠とした。斎藤道三に敗れて没落するまで土岐氏はここに居を構えており、堀や土塁、屋敷跡が残されている。現在大桑地区には、土岐氏の菩提寺の南泉寺や氏神を祀る十五社神社などがある。



岐阜市歴史博物館



奥の細道むすびの地記念館



天龍寺

境内には明智氏歴代の墓所が整備されており、毎年6月には光秀供養祭が執り行われている。本堂には光秀の等身大で作られたという位牌が収められている。



ふれあいバザール



岐阜城(稲葉山城)

光秀の主君、斎藤道三が土岐氏一族に代わり美濃の支配者となり、居城としたのが稲葉山城といわれたこの城である。道三の娘である濃姫の夫、織田信長はこの地を「岐阜」と改め、天下統一の拠点とした。光秀は信長にも重用された。



誕生



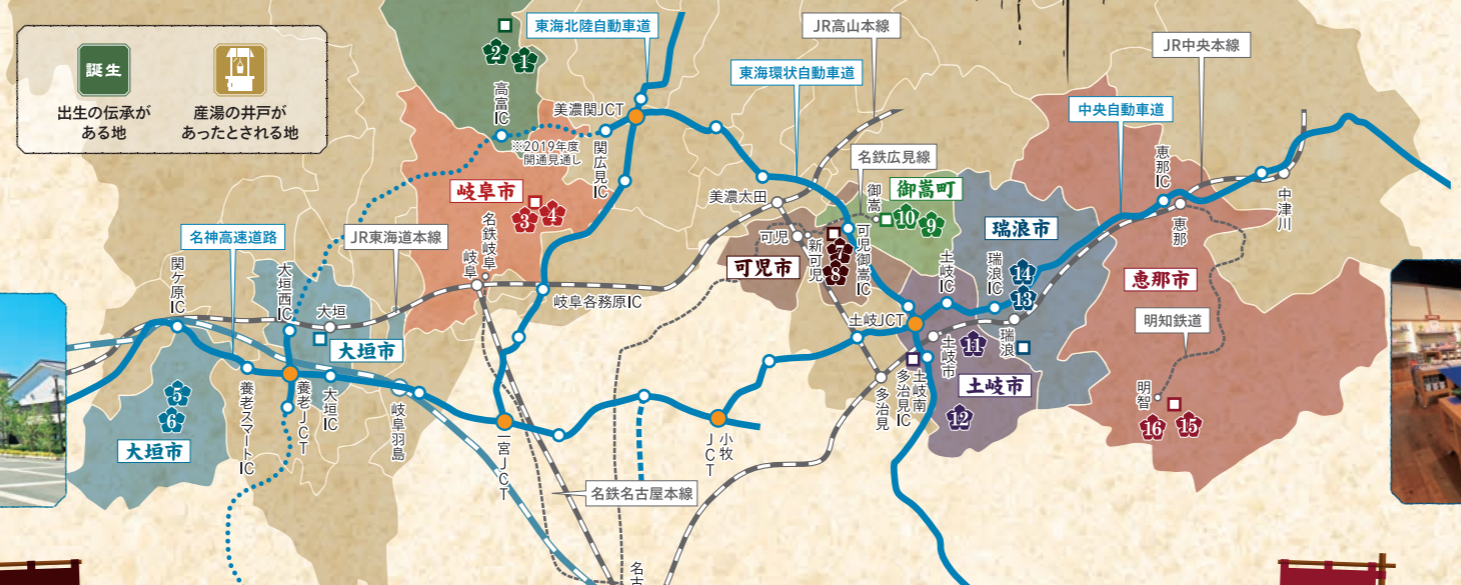
可児市



花フェスタ記念公園

明智光秀 岐阜県 ゆかりの地

岐阜県には 光秀公にまつわる伝承が 各地に残っています。



美濃国の住人ときの随分衆也 明智十兵衛尉 「統群書類従(第二十輯上)所収 「立入左京亮入道隆佐記」より

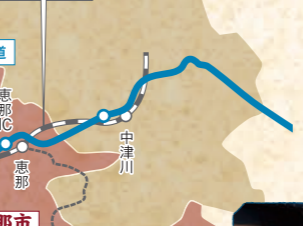


御嶽宿わいわい館



高山城跡

光秀の源流、土岐源氏の館を防衛するため、館を見下ろせる高台に砦を築いたのが、土岐高山城の始まりと考えられている。武田氏の侵攻により、戦いの舞台にもなった。高山城跡には現在、物見櫓が建てられ、土岐市街地を一望することができる。



誕生



ちやわん屋みずなみ



恵那市



日本大正村



可児才蔵

可児吉長(通称「可児才蔵」)は関ヶ原の戦いで討ち取った首に、笹の葉をくわえさせたという逸話から、「笹の才蔵」という異名がある。才蔵は関ヶ原の戦いで最も活躍した武将の1人とされ、最強の武将とも呼ばれている。



土岐市



土岐プレミアム・アウトレット



願興寺

光秀にも仕えた可児吉長(通称:可児才蔵)は、美濃国可児郡で生まれ、幼少期をこの願興寺で過ごしたとされる。可児才蔵は光秀のもとで本能寺の変に従い、山崎の合戦では光秀の影武者をつとめたとの説がある。 ※現在、本堂は解体修理中。



妻木城跡

光秀の正室は、妻木城を本拠とした土岐明智氏の女性、熙子(ひろこ)であったと言われている。妻木城は土岐明智氏である妻木藤右衛門広忠の本拠で、1658年に旗本妻木氏が断絶するまで使われていた。石垣や堀切などが残り、発掘調査によって建物跡が確認されている。



一日市場八幡神社

古くは高野と呼ばれた地で、美濃源氏・土岐一族によって「一日市場」という居館が築かれた場所と伝えられる。土岐氏発祥の地とされ、八幡神社境内には土岐氏の一族である「光秀の像」がある。



鶴ヶ城跡

光秀を輩出した美濃源氏・土岐一族が築き、以後土岐一族が城主であったと伝えられる山城。高野城、神籠城、土岐城などとも呼ばれ、岐阜県史跡に指定されている。天正2年(1574)年の織田・武田の戦いでは、対武田軍への最前線基地となった。

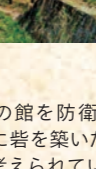
御嵩町



誕生



誕生



誕生



誕生



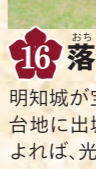
誕生



誕生



誕生



誕生